

## 日本映画衛星放送株式会社 第44番組審議会議事録

1. 開催年月日 : 平成 27 年 3 月 17 日 (火) 15 時～16 時
2. 開催場所 : 東京都千代田区有楽町 1-1-3 東京宝塚ビル 15 階  
日本映画衛星放送株式会社 ボーディングルーム
3. 委員の出席 : 委員総数 8 名 / 出席委員数 8 名  
出席委員 (順不同、敬称略) : 菊地 実・鈴木 嘉一・川本 三郎・坂井保之・曾根 和子・  
田保橋 淳・鳥居 美砂・西 正  
放送事業者側出席者 : 代表取締役社長 杉田 成道  
取締役 佐藤 信彦  
編成制作部長 澤 尚志  
編成制作部 樋渡 典英  
番審担当 堤 靖芳  
清水 明(記)

### 4. 議題 (1) 審議事項

時代劇専門チャンネル「三匹の侍」について

### (2) 報告事項

日本映画専門チャンネル 特集「邦画 VS 洋画 映画の中の「女」たち」について

### 5. 議題 (1) 概要

日本中に旋風を巻き起こした名作テレビ時代劇「三匹の侍」。1963 年から 1969 年までに全 6 シリーズが放送されたが、失われた素材が多く、第 4 シリーズを除き、これまで再放送もパッケージ化もされてこなかった。しかし、第 5、第 6 シリーズの素材が発見され、時代劇専門チャンネルで現存 3 シリーズ(第 4～6 シリーズ)を 4 月より放送できることとなった。ただ、この中には封建社会における身分差別を描いたエピソードがあり、現在慎重に取り扱いを考え、お断り付きでの放送を検討している。

については、対象となる話を委員にご覧いただき、また、お断りの文案も検討いただいたうえ、以下の点について審議を行った。

- 放送予定話に関する放送の可否の判断を正しいと考えるか。
- 放送予定話に対する扱い、対応を、適切だと考えるか。

## 6. 議題（1）審議内容

- ・面白かった。身分差別については、時代劇専門チャンネルという封建社会を前提とした作品を放送している専門チャンネルである以上、触れてしまう可能性は高いだろう。視聴者もそこはわかると思うし、こうした作品を放送することも理解されるのではないかと。差別は言葉の問題で、時代とともに封印された言葉が増えたが、それで差別と差別の歴史がなくなる訳ではない。言葉とともに作品を世に出す機会がなくなってしまっているのではないと思う。だからお断りを付け、時代背景についての言及があれば放送してよい。
- ・地上波初放送後ほぼ半世紀誰の目にも触れなかった「三匹の侍」は貴重である、という主張は理解できる。しかし、特筆して面白いとは思えなかった。歴史的価値しかないからだ。放送することは尊重するが、どうして今敢えて放送するのか、そこを聞きたい。
- ・私が見たいのは勸善懲悪ハッピーエンドの時代劇。だから好みではない。とはいえ名作だというし、懐かしい方も多と思うので、放送することは構わない。お断りを付けるべき、とまでは言わないが、付いていれば尚問題ないと思う。
- ・江戸時代における身分差別の問題を正面から取り上げ、差別を否定する形で描くテレビドラマが製作・放送されていたことに非常に驚いた。真面目で勇気ある作り手だと思う。時代考証がきちんと付いた上で制作されているので嘘はないと思うのだが、教えられるところがあった。お断りを付けて放送することで、視聴者にとっても発見につながるのではないかと。今回見た中にはマタギを扱った作品も含まれていたが、「マタギ」は差別語ではないだろう。なぜ今回取り上げたのか尋ねたい。
- ・私も「よくぞ作った」と思う。時代劇専門チャンネルとしては、アーカイブ的な意味も含めて、こうした作品をすくい上げて放送すべきだ。お断りの文案も適当だと思った。「江戸時代に向き合い、真摯に作品づくりをした結果、こうしたエピソードが残っている。現在の社会通念とはズレがあるが放送します」という意図がきちんと伝われば良い。
- ・主題も表現も非常に挑戦的な作品であり、現代のドラマ製作者が見たらショックを受けられるだろう。単純な娯楽作品に留まらないドラマであることが理解できる。テレビ時代劇の傑作と言えよう。放送は、事勿れ主義でない勇気ある姿勢だと評価したい。お断りの内容も過不足なく適切だと思う。
- ・今の若い方々は身分差別に関する知識がないので、こうした作品をお断り付きで放送することには賛成だ。放送に対しての何らかのリアクションはあるかもしれない。そうした声には注意深く耳を傾け、しっかり対応していく必要があるだろう。
- ・この作品には優れている点が多くある。例えば、効果音などの音響設計が素晴らしいし、モンタージュは大胆だし、音楽はとても良いし、作品には実験的精神が溢れている。放送の価値があることは間違いない。ただ、画質の劣化は残念だ。差別表現の問題だが、私は対象となった作品については、その背景などを説明したりしながら、基本的に全て放送すべきだと思う。

<事業者回答>

- ・「三匹の侍」が貴重で価値がある、と私どもが考えているのは、希少性という歴史的価値のみならず、表現やテーマなど時代劇を変革した画期的作品であり、今見てもユニークで面白いからである。視聴者からのリクエストも非常に多い。これまでも、例えば視覚障害者差別が含まれる『座頭市』などの作品もお断り付きで放送してきたが、今回身分差別がはっきりと含まれる作品についても検討しているということ。
- ・確かに「マタギ」は現在差別語として通常考えない。先ほど「差別は言葉の問題」という発言があったが、私どもは差別を言葉の問題だけとは捉えていない。封建社会における身分差別を描いた作品としては同列であると判断し、今回審議対象に加えた。
- ・地上波放送当時、樋口清之という歴史学と民俗学の当代きってのオーソリティーが時代考証に当たっていて、それゆえクレームもなかったと記憶している。確かに対象の話は暗く、文学的な作品だが、作品から強いメッセージが伝わってくる。こうしたエピソードがつくられ、間欠的に放送されていたのだから、現場や製作者のひとりよがりでは決してなく、放送局がこうした作品を容認していたのだし、クレームがなかったということは、社会が容認していたということだ。現代とは番組考査の基準が確かに異なるが、その部分をお断りで埋めながら放送していきたい。

7. 議題（2）報告事項

日本映画専門チャンネルとイマジカ BS は、ジャンルは違えど共に映画専門チャンネルである。それぞれの魅力をもっと映画ファンに知ってもらいたい、という意図で、この 2 月、コラボ企画が実現した。3 つのテーマに沿い、ほぼ同時代に作られた女性主役の映画作品を洋画、邦画それぞれ選出し、そこで描かれる女性たちの姿、映画の背景、時代性などを見比べ、それぞれの映画の魅力を徹底解体するオリジナル番組を 2 チャンネルで同時放送し、番組終了後にはそれぞれ紹介した映画作品を放送した。

8. 連絡事項：次回番組審議委員会は、2015 年 5 月 19 日開催。